



2017 J2 ■順位表■ 第02節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	湘南	6p	4	1	+3	
2	長崎	4p	5	1	+4	
3	名古屋	4p	3	1	+2	AΔ
4	山形	4p	3	2	+1	
	熊本	4p	3	2	+1	
6	千葉	4p	2	1	+1	
	横浜FC	4p	2	1	+1	
8	愛媛	4p	1	0	+1	
9	水戸	3p	4	1	+3	
10	福岡	3p	3	3	0	
11	京都	3p	2	2	0	
	大分	3p	2	2	0	
13	東京V	3p	1	1	0	
	徳島	3p	1	1	0	
15	岐阜	2p	3	3	0	--- ---
16	山口	1p	3	4	-1	HΔ
	讃岐	1p	3	4	-1	
18	町田	1p	2	3	-1	
19	松本	1p	0	1	-1	
20	岡山	1p	1	3	-2	
21	金沢	0p	0	5	-5	
22	群馬	0p	1	7	-6	

次回HomeGame

第04節 vs. 横浜FC

3/19 (日) 14:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホムラン TEL. 058-263-5201
名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

Living in Woods
本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel: 058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけど..
心の花が咲く..
何も無い店だけど..
心癒される..
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : 松本山雅

2016 J2 24勝12分6敗 勝ち点84: 3位

直近の対決と結果

2016/08/11
J2 - 28節@松本

松本 1-1 岐阜

瀧谷亮 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	松本山雅
2017/03/04 J2 - 02節@豊田ス 名古屋 1-1 岐阜	2017/03/05 J2 - 02節@ニンスタ 愛媛 0-0 松本
2017/02/26 J2 - 01節@長良川 岐阜 2-2 山口	2017/02/26 J2 - 01節@ニッパツ 横浜FC 1-0 松本
2016/11/20 J2 - 42節@長良川 岐阜 4-2 東京V	2016/11/27 J1昇格P/O@松本 松本 1-2 岡山

●いよいよ開幕したJ2リーグ2017シーズン。初戦となるホーム開幕戦・2/26(日)山口戦は、守備のミスから前半に2失点したが追いつき、2-2の引き分け。惜しくも勝ち越すことはできなかったものの何度も決定的なシーンを演出し、観客に「今年の岐阜は違う」という感触を与えてくれた。続く第2節に迎えた大一番、「名岐ダービー」3/4(土)アウェイ名古屋戦は、多くの岐阜サポーターが駆け付ける中で熱戦を繰り広げ、岐阜が先制したが試合終了直前に追いつかれ、1-1のドロー。公式戦で初めて名古屋から勝利を挙げることは叶わなかったが、それでも初めて名古屋から価値ある勝ち点1を得ることができた。この2試合とも、相手チームよりも岐阜の方がパスを多く繋ぎ、シュート数でもボール支配率でも上回り、試合を優位に運ぶことができた。多くの岐阜サポーターが「今年の岐阜は違う」と確信し、今後の大木監督のサッカーにワクワクしていることだろう。ただし、一方で2試合とも残念ながら「勝ちきれなかった」試合であることも事実で、2試合で得た勝ち点は2、現在のFC岐阜の順位は15位だ。まだ2試合を消化したばかりだから簡単に上下に変動する順位に一喜一憂する段階ではないが、勝利という「結果」で、現在のサッカーの方向性に選手たちが自信を持つことは重要だ。また、FC岐阜が現在のサッカーを、相手に研究された上でも継続できるか不透明な段階でもある。今後も、目の前の1試合に最後まで集中して勝利を目指し、着実に勝ち点を積み上げ続けることが求められるだろう。

さて、今節の対戦相手は現在19位の松本山雅FC。現時点では岐阜よりも下位に甘んじているが、昨年はプレーオフで惜敗したが3位、一昨年にはJ1を経験しているチームだ。6年目となる反町監督体制で、チームの主力選手は多くが残留。チームとしての積み上げは、岐阜より上だと認めざるを得ない。今シーズンは現在1分1敗、松本としては不本意な戦績のはずだ。我々FC岐阜と同様、この3戦目での勝利に懸ける気持ちは相当に強いだろう。両チームの気迫がぶつかる、激しい試合が予想される。

“新生”FC岐阜には過去のデータは関係ないかもしれないが、松本とのJリーグでの通算対戦成績は、岐阜の2勝1分5敗、7得点10失点。ホーム戦でも1勝3敗、4得点6失点と負け越している。「J1は自分の得意な戦術で戦うサッカーが、J2は相手の長所を封じるサッカーが強い」とよく言われる。山口や名古屋はJ2でも自分たちの攻撃・パスサッカーに軸を置いたチームで、同様のスタイルである岐阜と“がっぷり四つ”に組み合う試合展開となったが、松本は相手の長所を消すことに長けたチームだ。タフに走り回り、ハイプレス&ショートカウンターそしてセットプレーという、フィジカルを活かしたJ2の“王道”で、岐阜のパスサッカーを封じようとしてくるだろう。大木監督や選手達が、松本の戦術にどのように応じるのかが勝負の分かれ道となるだろう。

松本の要注意選手としては、まだ今季無得点だがストライカーの#9FW高崎寛之を挙げたい。そしてもう一人、#25MF志知孝明にも注目しない訳にはいかないだろう。岐阜県羽島市出身、そしてFC岐阜U-18の1期生で、Jリーガー第1号となった選手。残念ながらFC岐阜トップチームへの昇格は果たせなかったが、東海学園大学在学時に松本から特別指定を受け、昨年松本に加入。今年は公式戦出場・前節はスタメン出場も果たしている。ただし、今回は対戦相手。岐阜の選手には、しっかりと封じて貰いたい。また松本は、大量のサポーター動員力で知られている。隣県のデーゲームということで、今回も大挙してメモリアルに駆け付け、声援を送ることだろう。しかし、同じ“緑”をチームカラーとする彼らに「ホームジャック」をさせる訳にはいかない。僕らFC岐阜サポーターも、彼らに負けたくない大きな声援を、ホームスタジアムとしての声援を、最後まで選手たちに送り、背中を後押ししよう。そして試合終了後には、今季初勝利の歓喜を、万歳四唱をみんなで分かち合おう。(ささたく)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!
gidaidohri@gmail.com

【第1節】岐阜 2-2 山口

●不思議な高揚感に包まれて迎える、J参入 10 シーズン目の開幕戦。経営状態の不安もチーム状態の不安もない、こんなシーズンを僕らが迎えることができるとは……実に感慨深いです（苦笑）。

さて、開幕戦のスタメンは前週のTM1本目のメンバーで4-3-3。TM2本目の方がパウロが入って活性化されてたから、そちらかと思ってたけど想定内。ただ、CB2人が本職ではないから不安があるなあ……と思っていたら、試合開始わずか3分で失点……（呆然）。その後、パスを繋いで攻め、#7パウロの惜しいシュートもあったけれど決めきれない時間帯が続く。そうしたら、ロングパス1本で裏を抜かれ、#5青木が倒してPKを与えて2失点目。あれは言い訳できないプレー、猛省して欲しい。ただ、2失点して目が覚めたかのように動きが変わる岐阜の選手たち。2分後には、失敗を取り返す#5青木のヘッドで1点差に縮めて前半を折り返す。そして後半……たしか後半10分ぐらいに「あれ？なんか山口の選手たちがバテてないか？」という感触を僕はもった。まさか、攻撃的パスサッカーを掲げる山口が、こんな時間帯からバテるなんてことが……と思ったんだけど、どうやら事実だったみたいで、岐阜の選手たちの動きとパスの精度がどんどん上がっていく。そして#28永島悠史の同点ゴール！G裏にいた僕からは、彼がDFの影に隠れたかと思ったら、ボールと左足先だけがわずかに姿を見せて、そこから枠の左上隅に突き刺す見事なシュートだった。いやはや、これが“京都の秘蔵っ子”の実力なのね。恐れ入りました（笑）。それと、ポゼッションサッカーの目的が「自分たちがボールを支配して相手に攻撃させない」というのは判っていたけれど、「相手を守備に奔走させて、少しずつジャブのように体力を奪っていき最後に仕留める」という意図もあるのだと、恥ずかしながら今さら知りました（苦笑）。

後半は、ほぼ一方的に岐阜が支配するゲーム。#10庄司が素晴らしい選手なのは、昨年に思い知らされてる（苦笑）から想定内だったけれど、予想以上に素晴らしかったのは#6シーニョ。やはり、2003年U-17W杯準優勝メンバーは伊達ではなかったです。何度も見事なサイドチェンジを披露して、ホントすいませんでした……っていうか、よく岐阜に来てくれたよね（笑）。他の選手たちも躍動していて、こんなにパスが繋がり、連動した動きのあるサッカーを岐阜で観られるなんて……と感動していたのは僕だけではないはずだ（苦笑）。残念ながら逆転には至らず、ドローで試合終了。勝ちたかった……と悔しい思いもあったけれど、最後のシュートにもっていく場面や守備面では課題もあったので、仕方ないかなあ……と。それに、このサッカーを継続できれば間違いなく今年の岐阜は強くなれるという手応えもあった。今年の岐阜の試合は、少しは楽しめそうだ（笑）。（ささたく）

●ついに始まりましたよ、2017のリーグ戦！そのお祝いは屋台村で！！グランドホテルのカレーライスに森本のソーセージと飛騨牛コロッケ、こもりの牛串を乗つけると、それは長良川名物・屋台村のオールスターそろい踏み。四天王を始め、屋台村に出店される皆様、今季もよろしくお願ひします。さて、3年ぶりとなった開幕節での長良川。その感想を一言で表すと「コレは、いったいドコのバルセロナ？」でしょうか。いや、バルセロナなんて書きましたが、コレは単なるイメージです。何しろ、ボクがバルセロナの試合を見たのは何年前だったのか思い出せないくらい。要は「圧倒した」と言いたかった……そう言ってもイイですよ？試合を通じてのボール支配率71%……、ってナンぞ？パス800本？一試合のパスの回数って制限ありませんでしたっけ？だいたい、パスって、味方がいようがいまいが、とにかく前へドッカ〜ンって蹴り出すモノじゃなかったの？で、それを拾われて、また攻められて失点というのがお決まりのコース、になっていたのが昨季までのウチだった。そんな風に思えるくらいのパス回し。あ

るいは、バルセロナではなく、「ドコの山口？」と書いた方が良かったかもしれない。昨季の対戦成績は一勝一敗。とはいえ、やってたサッカー、内容的には完敗。その山口相手にこの内容。「もしかして、入れ替わってる〜！？」というおなじみのセリフがピッタリだったかもしれない。

キックオフ直後からよく見たことのある展開。ワルくなかったのに、最初のシュートどころか、最初のアタックからの失点。昨季とおなじかよ〜？という雰囲気の中、ウチの初シュートから徐々に流れが作れてたのに、裏へのパス一本で、DFとして初めての公式戦だった翼の対応が遅れ、相手を倒してのPK。ここでビクトルが止めてくれたら「一生ついてくヨ〜！」と叫ぶ準備をしていたんだが。触ってたよね？惜しかった！（彼のレプユニ買っちゃうかも？）

しかし、前半から2点のビハインド。これ以上は厳しいゾと思っていた矢先のセットプレー。左利きの福村が蹴ると見せかけての宏矢。そこに飛び込んだのが翼。反撃の狼煙を上げるヘッドは記念すべきプロ初ゴール！おめでとう！！前半はこれで十分だ。1-2なら逆転のメは十分ある。そう思ってたなら、ナニ、アノ後半。語彙が足りなくて申し訳ないんだけど、まさに圧倒。それ以外に言いようのない無双っぷり。何しろ、ボールを回す、回す。見てる方が焦れて「そろそろ逆サイ！」と叫びたくなるくらい、同サイドでボールを繋ぎ、ラチがあかなくなると、躊躇わずにバックパス。GKのビクトルはFより触ってるんじゃないか？過去8年の全GKのパス回数の総計に匹敵するんじゃないか？そんな風に思うくらいにスゴかった。こういうサッカーもあるのか、いや、こういうサッカーがあるのか。いやはや、ずいぶんサッカーを見てきたつもりでいたが、たいして見てこなかったんだな。そう呟いてアタマを搔くしかない。これからは、GKへのパスを狙われるだろうが、ソコをどう対処するのか。それもまた楽しみだ。GKといえば、山口の山田クン。実は、密かに「レンタルしてくんないかなあ〜。」と思ってた人材。何しろ、地元だ。中津川出身。ツバつけておかない謂れはない。そして、結果からいうとその原石に勝利を阻まれた。少なく見繕っても2点は防がれたろ？前半のパウロ、後半開始早々の……、アレは古橋だったか？どちらか一本でも決まっていれば、結果も圧倒してたかもしれん。特に、パウロは翼と同じくJ2初ゴールになる一撃だった。あれが決まっていたら、どんだけ調子に乗っていったことか。まったくもって残念だ。それでも、今後の成長が楽しみだ、元気クン。いつか、ウチに来てください。パウロの初ゴールは次節に取っておきます。

それから、目を見張ったのが相手のプレスのいなし方。寄せてくる相手から遠い方にボールを置いて、突っ込んできた相手の裏に抜けてからのドリブル、あるいはパス。そりゃ、これだけ出来ればボールはなくさないし、攻めに楽に転じられる。そして、同サイドへ集めて置いてからの庄司、シシのサイドチェンジ。それを有効に活かしたのがルーキー大本。キックオフ時には左ウイングだったのに、田森のアクシデントで、彼のポジション・右DFに入ってサイドのイイ位置から上がる上がる。スタメンに選ばれたのも当然のパフォーマンス。後は、決勝ゴールになるはずだったヘッドを決めてたら……。次節はプロ初ゴール！といきましょう。そして、値千金の同点弾を決めた、有言実行の永島クン。彼はなかなかの掘出物かと思われま。来季はぜひとも完全移籍でウチへ。しかし、ホントに楽しかった。「ボールを失わない岐阜」なんて「グランパスとやるダービー」に匹敵するほどあり得ないフレーズ……。アレ？ああ、「今まで見たことがない。」という意味か（爆笑）。オマケに、あれだけシュート打たないなんて……。相手DFと同様、ボクらも焦らされたよ（苦笑）。大木監督の目指すサッカーは見えてきた。このサッカーは、次の次に当たる松本、いや、ソの字にはヤラれるかもしれん。が、次節の相手には……。そんな感じで、今、ワクワク感がハンパない。とにかく、来週末は豊スタへ行け！そう吹聴したい気分が満載です。（ぐん、）

【第2節】名古屋 1-1 岐阜

●リーグ戦としては初対戦となる、“名岐ダービー～木曾川の合戦～”と銘打たれた試合。天皇杯では過去2回対戦、しかし2008年は0-1、2009年は0-3と敗れ、そして7年以上も経ってたのね（苦笑）。J2での対戦は少し不本意だけれど、待ちに待ってた岐阜サポは続々と駆け付け、名誉ある(?)“豊田スタジアム1階アウェイ側完全開放&隔離”の扱いに。奇しくも攻撃的パスサッカーを標榜する、岐阜・大木監督と名古屋・風間監督の“同級生”監督対決になった。

とはいえ、元J1・名古屋相手にどうなることかと思っただけ、なんと岐阜の方が押してるじゃありませんか（笑）。大木監督のサッカーも風間監督のサッカーも、習熟までには時間を要すると聞いていたけれど、現時点では岐阜の選手たちの“習熟度”の方が上だということなのかな。前節の山口と比べ、GKへのバックパスは少なめにしてリスクを減らすなど、修正点も感じられた。とはいえ前半シュート0本だった名古屋も後半には修正し、ほぼ互角の試合展開に。さすがに名古屋相手に岐阜の選手の足も止まりはじめ、このまま、“がっぷり四つ”でスコアレスか…と、わずかに脳裏をよぎった79分。#6シシーニョのサイドチェンジを受けた#7パウロがゴール前にカットインして、左足一閃。GK#1植崎正剛の脇をすり抜けて、先制ゴール!!名古屋からの初得点。沸き立つ岐阜サポーター。…だけど、あそこで変な欲が出ちゃってたのは若い選手が多いからかな（苦笑）。そして、パワープレイ（いわゆる“放り込み”）に方針変更できる名古屋の選手層の厚さは、悔しいけれど流石は“オリジナル10”と言わざるを得ない。85分に長身2mの#9FWシモビッチ投入なんて、そんなんできひんやん普通（苦笑）。不安は的中し、小柄な選手が多い岐阜は守勢に。そして90分、CKを押し込まれて同点に追いつかれてしまう。その後、名古屋の猛攻に耐えきり、ドロー。掴みかけた勝利がすり抜けてしまったのは本当に残念だったけれど、一方では逆転負けまでには崩れなかったと、選手たちを讃えたい。岐阜のG裏は拍手で選手たちを迎えたことが、みんなの想いを表していただろう。この悔しさは、ホーム・長良川で晴らしたいね（笑）。

この2試合、大木サッカーの“楽しさ”“強さ”を僕は確信できたように思う。だけど、まだ守備やフィジカル面での不安やシュートに至るまでの課題なども見えているように思う。これらをどう克服して、よりよいサッカーを魅せてくれるのか…他のチームは対策してくるだろうから油断はできないけれど、なんだか週末が今まで以上に楽しんだ。（ささたく）

●いい天気、いいピッチ、いい雰囲気。そんな中で行われたリーグ戦での初対決。決して、間違っても、誰が何と言おうと、『公式戦初対決』ではないので。公式戦は3回目なので。そこは譲れないので。異論は認めないので。大切なことなので、しつこいほど繰り返して書きました。それは、さておき。

開幕節・山口戦の感想に「どこのバルセロナ？」って書いて、少し恥ずかしくなって、たくさん言い訳を連ねました。けれども、豊スタでハーフ・タイムに入った直後、いっしょに見てた仲間が「バルサみたいでしたね。」と。サッカー経験者であり、彼の炯眼に一目も二目も置いているボクにとっては、まさしく天の声。やっぱり、そうなのか、と。彼以外にも、ウチの選手をバルサの名手になぞらえている仲間もいて、さらに気分は高揚。でも、それくらい圧倒してた前半。試合全体ではボール支配率50%を超える辺りだったが、こと前半に限っては8割方支配してた印象。少なくとも、グランパスに何もさせてなかったようにすら見えた。隣りに座ってた仲間が「圧倒的じゃないか、我が軍は！」という禁句を漏らしてしまったのもやむを得ない仕儀。コレは言っちゃダメだ……とガマンしてたんだけどね。そしたら、案の定、後半はかなりの割合で危ないシーンを作られてしまった。試合が終わるまでは余計なこと言っちゃダメだね、やっぱり。とはいえ、アノ前半をそのまま後半もやり切れるんなら、ACL出られる

ね。で、遜色なく戦えるよ、ウン。しかし、パスってあんなに繋がるもんなのか？。狭いトコ、狭いトコへ、自ら望んで相手を誘い込んで、オマケに股間を通す、通す。そりゃ、ソコを通して相手の背中へ送るのが最短距離のパスになるけどさ。重心の移動中にはカラダが反応できないというのわかるけどさ。ヤラレた方はたまったもんじゃないよねえ。いや、開幕から……じゃないな。二試合続けて内容に得心がいき、そのうえで心地よく酔えたのはJ参入して初めてかもしれない。だからこそ、結果が欲しかった。勝てば、それが自信に繋がったのに。そして、そのチャンスは相手が風間グランパスだからこそ、おおいに目があったはず。大木さんと同様、風間さんも攻撃志向。お互いのスタイルをぶつけ合う試合でウチが優勢に立ち、あまつさえ先取点を、それも絶妙な時間帯にソレを決め、まさに天祐は我らにあり。そんな流れだったんだけど、一気に引き戻す最終兵器をグランパスが持っていた。言わずと知れた北欧の巨人、電柱シモビッチ。彼にはヘニキが密着マークしたけど、競合いではアタマーつ以上の差が出てしまう。当然、他の選手がカバーに入り、空いた裏を内田のヘッド。だいたい、愛媛の時からヤな選手だったけど、やられるのはたいてい左足。ヤツにヘッド決められるなんて……。でも、それがいわゆるグランパスとウチの差。埋めようのない隔たり。同じような戦術でガチンコやりながら、「ラチがあかん。」と思ったら、ガラッと戦術を変えられる幅の広さ。手駒の豊富さ。対して、ウチは選手が替わっても置換状況の維持まで。勝ちたかったけど、勝ち点1は御の字。妥当な結果と言うより他はない。ゲームは優勢に進められた。ただ、その支配率も、スモール・スペースでのパス交換も、あくまでゴールを奪うための手段であって目的ではない。要は、ゴールを相手より多く奪うこと。この試合の枠内シュートもウチの方が多かった。でも、決定的と言えるのはパウロのシュートと前半の古橋のミドルだけ。もちろん、パウロは決め切ったんだけどね。この二本の共通点は、カットインからのドリブル・シュート。二人とも個人で勝負した結果。つまり、ゴール前までは組織的なパスで迫りながらも、最後を決め切るのは個の力。よく言われることだけど決定力、決め切る力を磨いて欲しい。ソレがないと厳しい。そのチャンスは、このグランパス戦の方が大きかった。逆に次節の松本戦が序盤の正念場。風間さんとは真逆の立場で臨んでくるのが、アチラの監督。ソの人（名前は書きたくない）。グランパスとは対極の「相手の良さをコロす戦術」。一番やりたくないタイプ。この試練を乗り越えることが出来るか、どうか。一つの試金石です、大木岐阜。乞うご期待！

それにしても、シビれたなあ～。得点シーンのシシーのダイアゴナルなパス。そして、J2初ゴールおめでとう！パウロ。これからヨロシクね。（ぐん）

●1-1は妥当な結果だったと思う。昨年までJ1の名古屋を相手に「がっぷり四つ」の押し相撲をやったのけたのはすごいことだが、さすがに後半15分あたりで選手に疲れが見えてきて、中盤での一歩で負けるようになる。もし、この時点で名古屋の風間監督がシモビッチ投入という「確実に勝つ」手を打ってきたら岐阜は負けていただろう。パウロの先制点を受けてシモビッチがピッチに送り込まれ、名古屋はチカラ技で同点に持ち込んだ。風間監督の「ロマン」から「リアル」へのシフトが遅れたために手に入れることが出来た勝ち点1だった、とも言えるだろう。

開幕2試合で「今季は戦える！」との手ごたえをつかんだ岐阜サポは大勢いる。観ていても楽しい。十分にお客さんと呼ぶ価値のあるサッカーをしている。あとは結果だ。「サッカーは、現状維持は退歩と同義」とは、先日亡くなった木之本興三氏（元・Jリーグ専務理事）の言葉と記憶している。新しいFC岐阜のサッカーが「新しい」のは、そう長くは続かない。『楽しい』サッカーで『勝つ』。FC岐阜に求められているのはその2つ。今季は、その2つを同時に求めることは可能だ。ぼくはそう信じる。（吉田 Casting）

